



# 到津小学校研究主題



～新しい時代に必要となる資質・能力の育成～

到津小学校主題研究テーマ H27年度～H29年度

主体的に学び、確かな学力を身につけていく子どもの育成  
～ アクティブ・ラーニングを活用した授業づくり ～

## アクティブ・ラーニングとはなにか？ 3つの定義

### 【第1の定義】 政策的定義としてのアクティブ・ラーニング

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」

### 平成24年8月28日中央審議会の用語集でのアクティブ・ラーニングの説明

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法の総称。

学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【政策的定義】・・・大きな方向性

「学修」は、「学習」とは使い分けられる。

授業時間だけでなく、授業外（予習・復習）も含めた学びの様態を捉えようとする考えとして「学習」ではなく「学修」が使われている。

アクティブ・ラーニングの政策的定義の最大のポイント  
「一方的な講義形式の教育」とは異なるという点

## 【第2の定義】 学術的定義としてのアクティブ・ラーニング

そもそも、教員の一方的な講義形式が主流の大学授業を改革するための言葉

### ※ 大学教育向けに書かれた溝上慎一氏の「専門的な理論書」

一方的知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そので生じる認知プロセスの外化が伴う。

### アクティブ・ラーニングの基本要素

「書く・話す・発表するなどの活動の関与」

※「関与」・・・学生が学習プロセスに関与しているということ

「そこで生じる認知プロセスの外化」

※「外化」・・・自らの考えやアイデアを発話、文章、図式化、ジェスチャー等の方法で外に出してみることに

アクティブ・ラーニングの学術的定義の最大のポイント  
新しい学びとしての特質（要素）は、「関与」と「外化」

## 【第3の定義】 実践的定義としてのアクティブ・ラーニング

「ワークショップ型授業で国語が変わる〈小学校〉」上條晴夫編著 図書文化より

アクティブ・ラーニングの指導実践では、「授業の中心に活動がある」ように設計する。その体験を「学び」に結びつけるために「ふり返り」をする。以上の「活動＋ふり返り」が、できる限り自由な、気楽な感じの中で行われるように、教師は子どもと「水平な関係」になるように配慮する。

### アクティブ・ラーニングの授業づくりに必要なもの

「授業の中心に活動がある」

※ 授業パターン

- ① 説明中心型授業・・・講義形式
- ② 発問中心型授業・・・一問一答式
- ③ 学び合い型授業・・・活用型学力の育成
- ④ 活動中心型授業・・・アクティブ・ラーニング

「その体験を学びに結びつけるために『ふり返し』をする。

※「ふり返し」

- ・「活動」で生まれた認知の変化を「ふり返し」によって外化する。
- ・発表や図形、文章などを通じて、自分の頭にある考えを外に出す。
- ・学び合いの中で、何度も繰り返される。

■「問い直し続ける」

アクティブ・ラーニングの実践的定義の最大のポイント

- ◆ 活動中心型授業
- ◆ 「ふり返し」をする・・・問い直し続ける
- ◆ 教師は子どもと「水平な関係」

## 学力向上に対する授業の型ごとの役割

### 四つの学習の型とアクティブ・ラーニングの位置づけ

	教育学的授業類型	獲得するもの	3類型
鍛える授業	① 教師主導型の講義・実習・習熟型授業	基礎的・基本的な知識・技能	習得型
	② 教師主導型の課題解決学習 (学習課題・追究方法とも教師が)	知識・技能の基本的活用モデル	活用型 (探究型が可能になるまでの過渡的なもの。学び方を習得済の中・高では時間効率化のため採用)
自ら学ぶ授業	③ 児童生徒主体の課題解決学習 (学習課題は教師が) (追究方法は児童生徒が) Project Based Learning	問題解決能力 (読解力、思考力、判断力、表現力、価値観等)	
	④ 問題解決学習 (学習問題、追究方法とも児童生徒が) Problem Solving Learning	問題発見能力 問題解決能力	探究型 (最終形)

アクティブ・ラーニング

# ◆アクティブ・ラーニングの実践

## アクティブ・ラーニングの実践授業

### 〈授業構想〉

- ①（習得型） 教師主導型の講義・実習・習熟型授業  
【A型授業、A型学習】※ 全体の学習の3割
- ②（活用型Ⅰ） 教師主導型の課題解決学習  
【B型授業、B型学習】※ 全体の学習の6割
- ③（活用型Ⅱ） 児童主体の課題解決学習  
【AL型授業、AL型学習】  
※ 主題研究 全体の1割（一週間に1時間の取り組み）

### 〈全員授業・・・学年でA研かB研〉

- ① A研：6本・・・講師を招聘（指導主事、現役校長、前校長など）
- ② B研：6本・・・校内研修（校長、教頭、教務、研究主任など）

# ◆ 研究に向かう姿勢

- ◎ チャレンジャーであること
- ◎ 研究者であること（主題研究に正面から取り組むこと）
- ◎ 実践者であること
- ◎ 「子ども第一主義」であること
- ◎ 縦の関係から横の関係であること

授業改革  
アクティブ・ラーニング

学級経営  
「縦から横の関係」に

生徒指導  
子どもに考えさせる：問い直し続ける

【授業力向上】

【指導力向上】

【学力向上】

# 一斉授業とアクティブ・ラーニングの違い！

## 一斉授業の場合

- 教師が一方的に講義をし、子どもは静かに座っているのが望ましい。
- 教師のペースで授業が進む。子どもは黙っている。
- わからない子がいても授業は進む。

## アクティブ・ラーニングの授業の場合

- 教師は課題を与え、子ども同士で教え合い、学び合う。
- 子どもが能動的に動き、他の子に教えたり、質問したりする。
- わからない子は、わかるまでクラスメイトに聞くことができる。

## アクティブ・ラーニングの授業の実際

### ① 授業開始

教師は手短かに課題と目標を提示（5分以内）

課題は黒板やプリントで明確に。

### ② 「さあ、どうぞ！」で活動開始！

課題解決時間を最大限確保する。

### ③ グループが生まれる

思い思いのグループができる。

わからない子が質問し、教え合いが始まる

### ④ 関わりが増えていく

子ども同士の教え合い、ダイナミックな動き

わかっていない子を把握

### ⑤ 全員が達成したか振り返る

最後に、全員が課題を達成できたかどうか、振り返る

（5分以内）

### ⑥ 次の課題を教師が子どもに投げかけ、終了。